

せつ そう じょう りゆう
雪叟紹立

雪叟詩集訓注

芳澤勝弘編著

2015年10月上旬刊行予定

▶A5判・874頁・口絵2頁／定価：本体15,000円（税別）ISBN978-4-7842-1801-1

（組見本）

[538] - [544] - 11

詩を論じ句を題す、宜しく先に賞すべし、定め得たり、東風に此の花無きことを。
【五四二】
梅紀梅
早梅一朶看花底、寫得共時梅太真。
跡影猶斜照下、明皇誤作海棠春。
早梅一朶、花を看る辰、
寫し得て、時を共にす、梅紀の真。
跡影猶斜、
明皇、誤つて海棠の春と作す。
【五四三】
梅花無盡藏
太真以前香暗度、梅花開關利三千。
到今△堂無雙者、回向孤山詩一篇。
太真已前、香、暗に傳う、

梅花、開關す、利三千。
今に到つて、無雙を刻畫する者、
孤山に向ふ、時一篇。
○天竺寺藏經「寫真」江南「梅花無盡藏」に「太真已前香暗度、梅
花開關利三千、到今堂無雙者、回向孤山詩一篇。」○趙孟頫
「世說新語」經註「無雙を刻畫して、西施を賞す」。陳女（無
雙）も以て美人（西施）に比す。比べ物にならない比喩。
【五四四】
曹竹
片々如飛又似蝶、風輪六出竹簾傍。
詩人眼界九方馬、隱作半半白鳳凰。
片々、飛ぶが如く、又た翔るに似たり、
風前、六出、竹簾の傍。
詩人の眼界、九方馬、
認めて、半半の白鳳凰と作す。
○九方馬「馬經」馬性詩「足不盡顏色似、前身相馬九方馬」。

愛知県豊橋市の妙心寺派太平寺に架蔵される写本『雪叟詩集』は、太平寺に住した雪叟紹立およびその周辺の禅僧の詩文集である。

その内容は、室町時代後期から安土桃山時代にわたる、主として妙心寺派の僧による詩、法語、古則に対する著語、文、書簡などであり、写本の筆跡は一筆ではなく、数人の手で書かれたものである。

そこに見えるのは、きわめて高度なテクニクを駆使した詩作であり、まさに「五山文学」そのものである。『雪叟詩集』は、この時代の妙心寺僧がどのような文芸活動を行っていたかを知るための好資料である。

翻刻・訓読に加え、語句・表現についての注、索引を付す。

（よしざわ かつひろ）1945年長野県生。花園大学国際禅学研究所教授（副所長）を経て、現在、花園大学国際禅学研究所顧問。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3 4 0 2)	
冊 数	冊	雪叟紹立 雪叟詩集訓注		本体15,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1801-1
お 名 前			tel		本書HPのQRコード 
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

江月宗玩 欠伸稿訳注 [乾・坤]

芳澤勝弘編著／江月宗玩原著

江月宗玩の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。分量的には、影印で刊行されている写本「孤蓬庵本」のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偶頌などを収録する。そのなかには私的なものも多く、江月の人柄を示すとともに、多くの文化人との交流を記録しているので、文化人の消息を窺う貴重資料ともなっている。

江月宗玩（こうげつそうがん、1574-1643）…

江戸時代前期の臨済宗の僧侶。津田宗及の子として生まれ、大徳寺一五六世として大徳寺の復興に尽くした。茶道では台子伝を宗及から受け、小堀遠州などに伝えた。後水尾天皇・豊臣秀吉・近衛信尋・織田信雄・徳川家光・高松宮好仁親王・一条昭良など、多くの公家・武家の帰依を受ける。

乾 ▶ A5判・644頁／本体 9,500円

ISBN978-4-7842-1462-4

坤 ▶ A5判・774頁／本体 9,500円

ISBN978-4-7842-1515-7

天龍寺文書の研究

原田正俊編

京都嵯峨の名刹・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第一部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書および関連諸塔頭文書を翻刻・掲載、第二部には研究編として解説・論考を収録する。

▶ A5判・716頁／本体 14,000円

ISBN978-4-7842-1571-3

※禪宗史の散策

荻須純道著

長年禪宗史の研究に携わった著者が、日本の精神文化を培ってきた禪の源流とその展開を明らかにする。第一篇は研究論文を主とし、聖徳太子・栄西・一休・夢窓国師・雪江宗深・白隠・道海などをとりあげ、また中国の禪にも触れながら、禪宗史の問題を論じる。第二篇では啓蒙的なものを中心に、中国の部6篇、日本の部13篇を収めた。

▶ A5判・570頁／本体 13,000円

ISBN4-7842-0122-X

近世妙心寺建築の研究

平井俊行著

京都府教育庁文化財保護課の修理技術者として、妙心寺建築物の保存修理に携わるなかで積みかさねてきた研究をまとめた一書。臨済宗妙心寺派本山の個々の建築について、本山や塔頭に残る中世～近世の古文書や棟札の解説、実測のみならず、それぞれの建造物の行事での利用状況まで分析し、近世妙心寺建築成立の意義を検討する。

▶ B5判・376頁／本体 9,500円

ISBN978-4-7842-1689-5

※天翔ける白鷗 愚中周及の生涯

児玉修著

禅僧・愚中周及（1323-1409）に惚れ込み、自ら山川を跋渉して、忘れられた愚中の足跡をたどってきた映像作家の著者が、時代のなかで苦悩し、雪中坐禅や夜を徹する月下での立禅など、自らの仏法を打ち立てた生涯をたどり、語録ではわかりえない血の通った人間愚中を描ききった意欲作。

▶ 46判・306頁／本体 1,600円

ISBN978-4-7842-1541-6

西山地蔵院文書

早島大祐編

京都大学史料叢書6

西山地蔵院文書は、創建当初から戦国時代までの文書を残し、守護が創建した京菩提寺に関する基本史料であるとともに、室町期の荘園制や都鄙交通を考える際に注目されてきた禅僧や守護奉行人の活動が具体的にわかる社会経済史上の重要史料である。影印・翻刻に、解説を加え、「西山地蔵院文書編年目録」を付記。【2015年10月刊行予定】

▶ A5判・420頁／本体 13,000円

ISBN978-4-7842-1816-5

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著

静岡大学人文社会科学部研究叢書46

写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明らかにする。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして古代から近代までの社会を概観する論議。

▶ A5判・384頁／本体 8,000円

ISBN978-4-7842-1773-1

蘭溪和尚語録

佐藤秀孝・館隆志編

蘭溪道隆禅師全集 1

鎌倉中期の渡来僧・蘭溪道隆（1213-1278）は、大覚派の祖・建長寺の開山である。その語録の原文影印と翻刻に、訓註・補註・解説を付して全貌を明かす。建長寺所蔵の覆宋五山版『蘭溪和尚語録』を底本とし、影印とその翻刻を載せ、これに文政本『大覚禅師語録』と大正新脩大蔵経本『大覚禅師語録』の当該箇所より文字の対校をなした。

▶ B5判・662頁／本体 15,000円

ISBN978-4-7842-1777-9

※瑞泉寺史

横山住雄著

応永22年（1415）、臨済宗妙心寺中興の祖・日峰宗舜の開創にかかる青龍山瑞泉寺（愛知県犬山市）は、濃尾平野の妙心寺教団の中心になってその発展に寄与してきた。その600年にわたる歴史を、通史編、伽藍・塔頭編、史料編の三部構成で伝える。

▶ A5判・583頁／本体 20,000円

ISBN978-4-7842-1487-7

※増補 妙心寺史

川上孤山著／荻須純道補述

大正4年に川上孤山師によって書かれた『妙心寺史』は、草創から維新期まで六百年の妙心寺の沿革を、本山・塔頭はもちろん地方寺院に至るまでその記録・文書を参照して描いた大著である。復刻にあたっては荻須純道による「明治以降の妙心寺」を増補した。付・松原一流（古月・白隠）系正脈図。

▶ A5判・830頁／本体 9,800円

ISBN4-7842-0429-6

関山慧玄と初期妙心寺

加藤正俊著

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

▶ A5判・390頁／本体 6,500円

ISBN4-7842-1281-7

大徳寺伝来五百羅漢図

奈良国立博物館・東京文化財研究所編

全100幅が制作され、うち82幅が大徳寺に伝来する「五百羅漢図」は、中国・南宋時代の仏教絵画を代表する名品。ボストン美術館とフリーア美術館に所蔵される12幅・江戸時代の補作（6幅）も含めた、現存する全100幅を大型図版で紹介。一点一点に画題と解説を付す。部分拡大図（40点）・絹目画像（170点）も高精細カラー図版で収録。

▶ B4判・312頁／本体 50,000円

ISBN978-4-7842-1743-4

死して巖根にあらば骨も也た清からん

寂室元光の生涯

児玉修著

臨済宗永源寺の開山である寂室元光（1290-1367）は、生涯を通じて大利に依らず、名聞利養を否定し、また知的で洗練された文藻を備えた、日本禅宗史上希に見る純粹清烈の僧として名高い。映像作家である著者が、桁外れにスケールの大きなその生涯を、小説のかたちでたどる。

▶ 46判・390頁／本体 1,800円

ISBN978-4-7842-1750-2

一休派の結衆と史的展開の研究

矢内一磨著

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆の問題を第二部で扱う。

▶ A5判・370頁／本体 7,800円

ISBN978-4-7842-1525-6

名庸集 影印と解説 [全3巻]

中本大編

寛永文化の根本史料『隔めい記』にその記述がみられる幻の史料『名庸集』。本書は信多純一氏（志水文庫）旧蔵本の全丁とあわせて、『名庸集』の一部であった『燈分集』（国立国会図書館蔵）の影印を収録し、中世から近世初期にいたる文学史・歴史・美術史などの研究に資する。また、第3巻には編者による詳細な解説を収録する。

▶ A5判・総1,282頁／本体 38,000円

ISBN978-4-7842-1708-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。